

津屋崎千軒の作家たち

江戸時代から保存されている土型は1000個以上に及ぶ。5月の節句用に作られた武者人形の土型は大きなものが多い。



筑前津屋崎人形工房

〒福岡市津屋崎3-14-3
☎ 0940-52-0419
🕒 9:00~18:00
🔥 火・水曜



素焼きの土笛に色が付けられると、人気者のモマ笛とフク笛の出来上がり!

東京のエスプレッサ靴学院にて靴作りを学んだお二人。婦人靴のメーカーに勤務した後、2012年に東京から福岡に移住して独立。



津屋崎の干潟に棲息するカブトガニをほぼ実寸大で再現した革のカブトガニ。



小さな葉っぱに葉脈もちゃんと表現されている『葉っぱピラス』5500円



袋uetやカンパニーなど、質感がバツンなもの!『バンのプローチ』2750円

革だから表現できる生き物のリアルな造形

葉脈の一本一本を再現した葉っぱのピラス、バンの肌触りそのもののプローチ、壁に掛かったカブトガニのオブジェは本物にしか見えないが、近づいて見ると縫い目がある。一見してそのアクセサリ類が革だとわからないのは、あまりにもリアルだからだろう。2012年に東京から移住してきた田中立樹さん・知絵さん。手帳や文具は知絵さん、その他のものは立樹さんが担当する。二元々、革靴をつくっていて、立体造形のほうが僕自身好きなので、そうした技術を生かして、動物や自然のものを形にしたものが多いですねと、革は自由度も高く、表現の幅があり、使いこめば味が出るので面白いという。ここを覗けば革製品のイメージがきつと変わるにちがいない。



「寝る子は育つ」と子どもの健康な成長を祈願した「寝りもの」と呼ばれる寝ている姿の子どもの人形。『居眠り童太鼓』4000円



縁起の良いもの(鯛や海老、お面など)を持っている子どもの人形が、数多く伝わっており、これもその一種。『餅食い童人形』4000円

土型でつながる過去と未来
いつか再び人々を癒す日が来る

餅をのばしてすすする童や太鼓の上で居眠りする童など、ちよつと気の抜けた仕草がとてつゆゆるくて癒されると、全国から注文が入る津屋崎の郷土民芸品だ。『筑前津屋崎人形工房』は、江戸時代に創業。1777年には生活土器(雑器)を作り始め、次第に人形を作るようになったという。現在は原田誠さんで7代目を数える歴史ある土人形工房だ。「型小屋に行けば、代々作られてきた土型が千個以上保存してあります。今人気の『モマ笛』や『こん太』も、江戸時代や明治時代の古い土型を探し出してきて復刻したものなんです」。これらの土型は息子さんの翔平さんに受け継がれ、さらに未来へつながり、再び新たな人形となつて日の目を見ることになる。その日が来るまで、みんなここで待っているのかと思うだけで、とても愛おしく感じる。



床の間で鮮やかな菊の花を生けて客をもてなす『染付龍文花瓶』。龍の絵は中国の古典的な絵柄だが、横に長い長方形の形状は、藤吉さんによるオリジナル。しかしどこか古めかしい雰囲気を感じている。



元は東京でグラフィックデザイナーとして活躍していた藤吉さん。帰郷を機に有田焼の窯元で商品開発に従事し、その経験を生かして自身で全ての工程を行う磁器作家として1997年に独立。2012年に津屋崎へ拠点を移し、東京、ロンドンなどの有名ギャラリーを通じて世界に彼の作品が知られるようになった。

古きものから脈々とつながる
先人たちの感覚を今の時代に生かす

花祭窯の藤吉憲典さんは、江戸時代に作られた『古伊万里』の作風を踏襲し、現代生活の中にも使える形に進化させた器をつくる磁器作家だ。古伊万里とは有田焼や伊万里焼などに代表される『肥前磁器』の源流で、特に江戸時代初期の古伊万里は、少し灰色がかつた素地に、絵柄も滲んでボケたような曖昧さに味わいを感じて人気が高い。「私は、古いものを再現して、現代生活の中にそれを提案したいんです。でも古いものを古いままではなく、基本は『オリジナルを超えるものを作る』です。例えば『秋刀魚の蕎麦猪口』の絵は古伊万里にはなかった絵ですが、あたたかも200年前にも存在したかのようにデザインしています。もちろん古典的な絵柄をそのまま使いたい場合もありますが、それでもサイズ感を変えたりハンドルをつけたり、古いものとまったく同じ



古伊万里にありそうでなかった文様という秋刀魚(サンマ)の絵。いかにも古伊万里らしく、しかも現代的な大胆な構図は藤吉さんオリジナルの真骨頂。『染付秋刀魚文蕎麦猪口』6600円



里芋の葉を傘に隠れた人物と梅雨時の強い雨『驟雨(しゅうう)』を表す古典的な文様。漫画の描線のような柄が面白い。『染付驟雨文蕎麦猪口』5500円



磁器製のフィギュアは外国人にウケがいい。「永井豪が好きなんです」と、漫画好きの一面も。



花祭窯(はなまつりがま)

〒福岡市津屋崎4-8-20
☎ 0940-52-2752
※訪問の際は要事前連絡

代生活の中にそれを提案したいんです。でも古いものを古いままではなく、基本は『オリジナルを超えるものを作る』です。例えば『秋刀魚の蕎麦猪口』の絵は古伊万里にはなかった絵ですが、あたたかも200年前にも存在したかのようにデザインしています。もちろん古典的な絵柄をそのまま使いたい場合もありますが、それでもサイズ感を変えたりハンドルをつけたり、古いものとまったく同じたい文化なのではないだろうか。



cokeco(コケコ)

〒福岡市津屋崎4-39-20
☎ 0940-55-1956
🕒 11:00~18:00
🔥 不定